

反対に権力は万能でなかったし、ゴルバチョフのような指導者が、一挙に社会を変えようとしても決して動くわけではないのである。去年の変動が急であるだけに、このことは特に注意する必要がある。

東西対決後の国際政治はこうなる

中国に期待するゴルバチョフの心中

中嶋嶺雄

いま、戦後国際政治を規定してきた冷戦構造が、いま急速に解体しつつある。

こうした状況のなかで、冷戦構造の枠組であったヤルタ体制が大きく崩れるのではないかという期待と不安が同時に起こっている。

去る十二月初旬のマルタでの米ソ首脳会談は、長い間の冷戦体制から米ソ両大國の協調体制への歴史的移行をものがたったが、そのマルタ会談をめぐって、アメリカ側にも数多くの不安が存在している。

しかし、政治が容易にかえられる分野、軍縮や政治面では改革は進行し、ここで「経済」と「政治」とのギャップは常に存する。九〇年代もまた「東側」の社会の動向に気が抜けないゆえんである。

(法政大学教授)

なぜならば、かつての一九四五年のヤルタ会談が想起されてくるからである。

当時のアメリカ大統領ルーズベルトはヤルタ会談に先立ちチャーチル英首相とマルタで会談し、ヤルタ会談に臨む準備をしたのだが、狡猾なスターリンの前に死の直前にあったルーズベルトはほんろうされ、結果的にスターリンの戦後世界政策への賛同をよぎなくされたのである。

これは現在のバルト三国併合、東欧諸國との国境画定に見られるヤルタ体制確立、また極東においてはソ連は対日参戦

の代償に中国での利権確保、北方領土の取得などによってアジアでのプレゼンスを大きくしてしまった。こうした過去があるだけに、今回のマルタ会談についても、ヤルタ体制の崩壊どころか、再び「マルタからヤルタへ」となるのではないかと不安はアメリカの内部にも大きい。

つまり、今日みられる東ヨーロッパの動きについても、ソ連の対西側戦略、世界戦略の延長線に見ようとしているのである。

だが、私は現在の東側諸國の激動は、そのような世界戦略ではなく、社会主義ゆえにかかえた、内部事情によるところが主要な原因となっていると考えている。もはや社会主義、共産党政権では経済も社会も順調に運営できないところにかけていることは明らかである。

戦後の西側諸國のダイナミックな、しかも多面的な発展に比べれば、共産党政権はいかに社会、国民を苦しめてきたか。もういまの東側の激動は、もとに戻

らない動き”なのである。

他方、今日のポーランド、チェコ、東独などの動きをソ連はどうみているか。

ゴルバチョフ書記長はベレストロイカ路線の下で経済改革を進め、従来とは異なる「新思考外交」を推進しており、いわゆる制限主権論による軍事力にものをいわせた抑圧をあえてしようとはしていない。もちろん経済改革が困難をきわめ、民族問題など数多くの国内問題を抱えているソ連だけに、ブレジネフ・ドクトリンによって東側同盟諸國に介入できる状況ではもはやなくなっている。むしろ、ソ連がこのような困難に直面しているがゆえにゴルバチョフの柔軟性ある外交、ソ連の新しいさが生まれたというよう。

ゴルバチョフ書記長も内心では、ソ連自身が東欧のような変革をいざれよぎなくされると考えているのではないか。だが今日の東欧のような急変は、現体制下においては大きな不安と混乱を招く。東欧諸國とはあまりにも違った問題を数多

く抱え込んでいるからである。

それだけに、一方では、東欧と逆の位置にある中国に対するソ連の期待は大きい。とくに天安門事件後の江沢民体制への期待は意外に大きく、ソ連側は今年六月の米ソ首脳会談前に江沢民総書記が訪ソすることをのぞんでいる。中ソ関係をさらに固めたいという意向が強いのである。

東欧の情勢に対するこのような許容と、民主化運動について一八〇度異なる対応をした中国との関係緊密化の両面性をゴルバチョフ体制は内包している。

東側への経済支援は、ブッシュ米大統領政権下において進められつつある。この背景には、アメリカ国民が従来の対ソ脅威論から一転してソ連に対する親近感を持ちはじめていることがあげられる。

だが、米ソ関係の改善がアメリカの経済力回復に結びつくものかどうか。一九九二年に向けてEC統合がはかられ、東西両ドイツ統一への方向も出てきている

だけに、こうしたヨーロッパの動きがアメリカにどう影響してくるか。そしてアジアにおいては、日本を中心とした韓国、台湾をはじめとした儒教文化圏諸地域の著しい経済的活力にアメリカはいまや恐れおののいている。二一世紀へ向けて、アメリカはその経済基盤、力に不安があるだけに、今日の日米関係にみられる、ソ連の軍事力より日本の経済力が脅威”といった見方がアメリカの世論の大勢になるかもしれない。

このように、ソ連、アメリカとも内部に重要な数多くの難問を抱えながらのゆるやかな緊張緩和の進行が九〇年代の世界をつくり出してゆくだろう。八〇年代前半までの新冷戦からの大きな変化が今日の東ヨーロッパの歴史の変革に連動しているところに現代世界の特徴があると

A・トインビー著 挿96000円
歴史の研究 全25巻
日本翻訳出版文化賞受賞
経済往来社

いえよう。こうした中で経済大国日本はむしろこれからより一層世界の注目を浴びることになる。ジャパン・バッシングが多方面から起こってくるという状況は避けがたいものとなる。

東西対決後の国際政治はこうなる

ソ連経済はなぜ悪化したか

梶田茂樹

ソ連でゴルバチョフ政権が成立して五年近くになるうとしている。対外政策や国内政治システムの改革、文化報道面でのグラスノスチ政策、イデオロギーや歴史の見直しなどでは目を見張る変化が現われ、中国ではゴルバチョフ政策は社会主義からの逸脱であるとして批判され始めたほどである。

しかし、これだけ大きな変化にもかかわらず、経済改革の面ではほとんど見るべき成果は現われていない。いや、成果が現われていないどころか、むしろ状況は相当悪化している。経済改革担当のア

日本は、こうした諸外国の「日本への挑戦」に耐え得るだけの柔軟な外交理念を打ち立て、日本の存立の哲学を明確に表明しなければならなくなってきている。(東京外国語大学教授)

バルキン副首相も、これから一年程の間に成果を生まなければ、全面的な配給制への移行の可能性もあり、そうなるにペレストロイカの破綻であると強い危機意識を表明した。レニングラードのギダスポフ党第一書記も、最近生産規律や労働生産性は低下し、製品の品質は下がり、ペレストロイカに対し国民の間に不信が生まれていると述べている。現在不足して特に買いにくくなっているものとしては、石鹼、洗剤、ノート、鉛筆、カミソリの刃、歯磨き、電池、靴、砂糖、コーヒー、紅茶などがある。今や多くの地方

ことができる。ソ連でも、いわゆる工業の「加速化路線」から改革を始めたのが誤りだったと批判されている。中国のよう

に農業改革から始めなかったため、国民は改革の成果を享受できなかった。つまり農業改革、食糧生産、消費材生産を後回しにした結果、国民がベレストロイカ路線に乗ってこなかったのである。今ようやく、農地の賃貸制や家族請負い経営の奨励など改革に乗り出したが、遅きに失した感だ。

第五に、もっと深刻な問題は、経済改革がある程度実行されたがゆえのマイナスの影響である。ブレジネフ時代にはいつでも買えた二〇、三〇カペークの安い石鹼が買えなくなったのは、企業が独立採算制に移行した結果である。つまり従来は省庁が石鹼の生産量や価格を上から指令していたのに対して、今は企業が独自にそれらを決定することができるようになった。その結果、企業は儲けの少ない製品の製造は止め、生産量を減らし価格を吊り上げることによって、手取り

早く利益を上げようとするようになったのだ。

数人から十数人でサービス業、小売業、修理業、製造業などを営むコーペラチブ(協同組合経営)も許された。本来は安価で質の良い製品やサービスを豊富に供給するためのものであったが、現実には値段が吊り上がり、商店の物がかえって少なくなった。これは、協同組合が国営の商店や組織から商品を買占め、それを数倍の値段で転売して暴利をむさぼるという行為に出たからだ。原材料も自由に入手できない絶対的不足経済のもとでは当然の行為でもある。こうなると、売り惜しみ、買い占め、買いだめが起き、投機行為や闇商売がはびこり、マフィアが跋扈する。これが品不足にますます輪をかける結果となっている。通貨改革の不安も買いだめに走らせている。

企業の生産性低下の原因としては、誤った人員整理も挙げられるだろう。企業や組織は経済改革の柱として肥大化し

都市ではチケット制、つまり実質上の配給制の導入が余儀なくされている。先進工業国家としてはちょっと信じられないような現象だ。ゴルバチョフは就任当初から、経済の効率向上を最大の目標にして、経済改革の号令をかけてきた。一体どうしてこういうことになったのだろうか。

その理由としては次のようないくつかの理由が考えられる。第一はブレジネフ時代の放漫経済のつけが回ってきたという過去の遺産であり、第二は原油価格の低下など国際経済環境の変化である。第三は過渡期の混乱だ。従来の行政的指令システムは麻痺し、新しい経済システムはまだともに機能していない。一九六〇年代半ばから何回か経済改革の試みがなされたが、今回ほどの混乱に陥ることがなかったのは、皮肉なことに官僚たちが改革に抵抗して頑張り、おかげで行政的指令システムが麻痺しなかったためである。

第四には経済政策自体の誤りを挙げている管理部門の過剰人員を削減するよう指令された。しかし実際には、組織内の力関係により、管理部門ではなく現業部門の人員が整理され、生産活動に悪影響が出ている。鉄道事故が増加している背景にもこのような事態があるという。また、高給に惹かれて熟練工や有能な技師などが協同組合に流出しており、これも企業の生産活動に影響を与えている。以上、いくつか理由を挙げたが、ゴルバチョフの経済政策は、これらの諸問題を解決する処方箋をまだ有していないと言えらるだろう。(青山学院大学教授)

トインビー入門

山本新／秀村欣二編著 トインビーの「人と思想」を体系的に説く
四六上製 定価1030円(税込)
わかりやすいトインビー

山本新著 トインビー研究の第一人者がその歴史観を平易に説く。
四六並製 定価927円(税込)

東京都新宿区 経済往来社
四谷4丁目11